

第 6 回とべ動物園魅力向上検討委員会の開催結果

1 委員会の名称 とべ動物園魅力向上検討委員会

2 開催日時 令和 7 年 3 月 2 5 日（火曜日） 1 5 時 0 0 分から 1 6 時 3 0 分まで

3 開催場所 とべ動物園ふれあいセンター 2 階視聴覚ホール

4 出席者 委員 8 名、事務局 4 名、とべ動物園職員 6 名

5 審議事項（議事）

- （1）第 2 期の取組みについて
- （2）第 3 期の取組み予定について
- （3）とべ動物園まじめ行動計画第 3 期（案）について

6 審議の内容

議事（1）第 2 期の取組みについて

○事務局から第 2 期とべ動物園まじめ行動計画（令和 4 年度～6 年度）での取組みについて説明した。

- ・第 2 期は「良好な「とべ動物園ブランド」の強化と定着」を目標とし事業を推進。
- ・話題性のあるイベントとして、令和 5 年度にはキャンプを開催し、募集定員を大きく上回る応募があり、好評を得た。
- ・夏と秋には、恒例となっている夜の動物園、冬にはイルミネーションの夜間イベントを開催し、幅広い客層の誘客に努めた。
- ・Web による情報発信として、20 代の若者層や子育て世代をメインターゲットに、デジタルマーケティングの手法を活かして、幅広くプロモーションを実施。
- ・魅力ある動物の購入等やブリーディングローンによる新たな動物を導入し、繁殖に努めた。
- ・第 2 期計画において、大規模なリニューアルを予定していたサル・ヒヒ舎は事業費高騰の影響により休止となった。
- ・獣舎以外のハード整備として、令和 5 年度にレストラン横に軽食コーナーとしてキッチンプレハブをオープン
- ・来園者数は、新型コロナウイルスの 5 類移行により、コロナ禍前の 40 万人台を回復。
- ・ホームページ閲覧数は、令和 6 年度は令和 3 年度と比較し、1.8 倍に増加。
- ・来園者満足度は 81%（令和 6 年度）と着実に成果がでている。

○委員からの主な意見

- ・キャンプは今後継続して実施するのか。
⇒（事務局）多数の応募があったことから、今後開催について検討したい。
- ・SNS 発信対象の属性（年齢・地域）として、どのターゲットに力を入れていくのか。
⇒（事務局）主なターゲットは子育て世代だが、高齢者層については、平日の来園が多く、WEB 広告の反応も良いので、力を入れていきたい。また、地域についてもビッグデータ（位置情報）を参考にしながら、今後ターゲットを定めていきたい。
- ・今年度、こどもの城で大規模なイルミネーションイベントがあったが影響はどうか。
⇒（事務局）こどもの城のイベントに来園者が流れたこともあり、イルミネーションについては、例年より来園者が少なかった。
- ・イルミネーションイベントの実施によって職員の負担は増大していないか。
⇒（動物園）動物の展示はしていないため、最低限の人員で対応できる。

- ・キッチンプレハブの移転効果はどうか。
⇒（事務局）以前より、立地もよくなり売上は上がっている。
- ・集客面における課題は何か。
⇒（事務局）イベント等については、周知が図れていなかったところもあるので、情報発信に力を入れたい。

議事（２）第３期の取組み予定について

○事務局から第３期とべ動物園まじめ行動計画（令和７年度～９年度）での取組み予定について説明した。

- ・第３期計画を検討するにあたり、動物園職員と県職員が参画するワークショップを開催し、実効性のある施策検討を実施。
- ・第３期は、とべ動物園に愛着をもってもらい、とべ動物園ブランドロイヤルティを獲得し、年間５５万人の来園者を目標とする。
- ・とべ動物園の展示コンセプト、長期的な種の保存の観点などを踏まえた動物管理計画を策定し、計画に基づき、動物の搬出入、繁殖に努める。
- ・インドネシアから雌のオランウータンの導入を見据え、旧インドゾウ舎を活用したオランウータン舎の整備を実施する。
- ・新たな動物導入のために必要な獣舎改修や、老朽化対策に併せた魅力が向上する部分改修を実施。
- ・インバウンドの増加に対応するため、多言語表記動物解説板やストリートフラッグの多言語化を実施。
- ・引き続き Web による広告の実施やサイネージ広告を活用したイベントの周知、園内 Wi-Fi 環境の整備に努める。
- ・施設見学や学校との連携強化による教育活動を展開する。
- ・とべもり＋（プラス）と連携し、周遊、連携促進に努める。

○委員からの主な意見

- ・とべ動物園のホームページを見やすくしてほしい。
⇒（動物園）現在、ホームページのリニューアルを実施中。
- ・（宮内委員（園長））動物管理計画については、来園者の意向も踏まえながら、全国の動物園とも連携しながら、動物種数の維持、増加また繁殖に努めていきたい。

議事（３）第３期とべ動物園まじめ行動計画（案）について

○事務局から第３期とべ動物園まじめ行動計画（令和７年度～９年度）案について説明を行った。

- ・とべ動物園に愛着を持ってもらい、高い「とべ動物園ブランドロイヤルティ」の獲得を目指す。
- ・目標入園者数は第２期に引き続き５５万人を目指し、来園者満足度は８５％を目標とする。
- ・４つの取組み方針に基づき、３６の施策を実施する。
※主な取組みは「議事（２）第３期の取組み予定について」を参照。

○委員からの主な意見

- ・教育などのとべ動物園としての取組みをアピールしていくことが重要。
先日、国際学会を開催した際、とべ動物園の訪問は非常に満足度が高かった。
⇒（事務局）教育も含めた情報発信に努めていきたい。
- ・とべ動物園のブランド（目玉）を明確（見える化）にして、来園者に伝えていくことが重要。
- ・とべ動物園の取組みのアピールが弱いのでその強化、また砦部に立地しているのも関

わらず、「低部感」が薄いと感じている。広報や商品開発にも力を入れてほしい。

- ・平日の集客については、児童たちに動物園で色々な活動ができるといったアピールであったりとか、地域の高齢者を呼び込む仕掛けや高速道路のサービスエリアや空港など、県外の人にPRできる場を設けることが重要。

⇒（事務局）高速道路のサービスエリア等では広告発信などを行っているが、アピールが足りない部分もあるので、引き続き効果的な情報発信に努めていく。

- ・道路で来られる方が多いので、看板設置は有効ではないか。

- ・経営の観点から、クラウドファンディングなどで、必要な資金を確保する検討をしてほしい。

- ・ゲーム障害やインターネット依存症が物議をかもしているが、生命は生き物に触れてみないと体得することはできない。レイチェル・カーソンは、子どもたちに大切なのは知識より前に、「自然の神秘さや不思議さに目を見張る感性」を養うことの重要性を強調している。※ それは本物の自然に触れることによって得られるものであることから、将来の社会を担う子供たちの健全な成長を思えば、とべ動物園を充実する施策の費用対効果は限りなく大きいものとなるため、愛媛県は十分な予算確保をお願いしたい。

特に、ふれあい施設の整備であるとか、日本（四国）固有種を自然な環境で行動展示してグレードアップされたい。

※レイチェル・カーソン著 上遠恵子訳『センス・オブ・ワンダー』 新潮社、1996年 pp. 60

とべ動物園第3期まじめ行動計画については、当案を基本とし、石川委員長と事務局で表記などについて調整の上、公表を行う。

〔整備検討委員会事務局〕

土木部道路都市局

都市整備課公園緑地係

電話 089-912-2749

FAX 089-912-2744